

THE DAY



NEWS LETTER

2025 / 11 / 1 Noboru Morishige

YouTube 森繁昇チャンネル



友達、親戚、家族、兄弟姉妹、このレターを読んでくださる皆さん 2025 年 11 月 1 日

皆さん、元気になっておられるでしょうか？ 皆さんが元気になっておられることを心から願っています。

今日も、イエス・キリストのゴスペル＝永遠の希望、永遠の命の希望をお知らせします。

ここは常夏。なのに今、私は、昔の日本の秋を色々思い出しながら、その秋の気分にひたっています。

若い頃から、私は、いわゆる本というものを、1冊も読んだ覚えがありません（聖書以外）。勉強嫌いでしたからね。そんな私が、高校の時、古文のクラスで先生が紹介した一冊の本の文頭の言葉を思い出したのです。実は、そこだけしか覚えてないのです…笑。今思えば、私は、その頃、そんなのが好きだったのかもしれない。

「徒然なるままに、ひくらし、アイパッドにむかひて、心に移りゆくよしなし事を、そこはかとなく書きつくれば、あやしゅうこそものぐるほしけれ。」（徒然草）

もちろん、私は、これと同じ気持ちというんじゃないのですが、しかし、ニュースレターの入稿の日がとうに過ぎ、レターを書く思いが、この数日、朝から晩まで私の心にあるのです。そんな中、今朝も、アイパッドに向かい、レターを読んでもくださる皆さんに何を書くか、イエス様にお願いしながら考え、思い、イエス様から与えられるゴスペルの「よしなしこと」を書き綴っているのをございます。笑。

「よしなしこと」(私には、目的がありますが。)

激暑もおさまり、いきなりちょっと肌寒い秋です。そうは言っても、私の所はいつもの夏。日本の天気予報を見て、昔を思い出しながら書いている？ まだヒーターなしで、少し厚手の布団にくるまる、それほど寒くないこの季節、よく寝れるんですね。そんなことを考えながら書いていると、あの歌を思い出しました。秋に想う人生のわびしさの中に生まれる、あの希望の歌ですよ！ エッ、どの歌？ この歌です。

「春が来て夏になり 秋は去り もう冬
ふたたび桜の花 見る日来るかな
他人は死んでも 我 死ぬことを忘れ
おごる心 谷間の こだまと消える
いつまでも生きていたい 心の願い
神が人の心に書いた 約束
それを知った今は 優しい神の御前に
あわれみと恵みを ただ請うのみ
私を愛し 命を捨てた
イエス・キリストは よみがえられた
死んだような枝でも また芽吹く 春には
夜のあとに朝が来 闇は 消え去る
この身は朽ち果てても また 生きかえる
神の言葉の証 今 胸に見た

(歌：「胸に見た」より)

「よしなしこと」つづき

今朝はうるさい鳥の声で目が覚めました。うるさいと言いましたが、まさにそうです。ただ、鳥の声で目が覚めたと言うと、「あらまあ贅沢。」のように言われますよね。その言葉ですぐ想像するんでしょうね。木立の中の静かなさえずり。でも、ここ私の所では、実際、うるさくて仕方がないのです。笑。

いろんな種類の鳥が鳴いています。近くで、遠くで…。聞き分けられる鳴き声でも6～7種類はいます。鶏も、犬の鳴き声も混じっています。それらの声を聞きながら考えるのです。「人生って何でしょう？」えっ—？鳥の声で？

人生って何でしょう？

若い頃から時々その言葉を聞いたことはありますが、「そんなこと考えて、何になる！」みたいな感じを持っていたと思います。「今日が充実して楽しかったらいいじゃん。」みたいな単純な気持ち？しかし、自分がやりたいことに関しては、しっかり、「ガーーーーッ！」と、やってたと思います。あっ、思い出しました。何を？私の歌です！どれ？「僕は何のため？」その歌の中に、上に書いたのと似たラインがもう2つあります。「そんなこと、あんまり考えないで、気分にかかせて、好きなことやっていいじゃん。」もう1つは、「そんなことあんまり考えないで、流れにかかせて、みんなと一緒にいったらいいじゃん。」です。で、その後に、こう続くのです。「でもね、1人になったら襲ってくるんだよう。何か満たされない寂しい気持ちだ。」そうだよなあ。

この歌の最後のところは、
「作られた物は、作った人や会社の目的があるから、役目があるよね。もし僕を造った方がいないなら、目的なんかないさ、役目もないよね。でも、僕の心はさあ、命かけてやることをやりたいよー。そんな風にどうしても生きたいんだよ。でもね、それが何だかわからない。神様教えて、僕は何のため。」「人生って、何でしょう？」

「よしなしこと」つづきのつづき

私は、これまでの長い人生の中で、多くの誕生会、また、多くの葬式に出席しました。今、それらのことを思い出していますが、誕生会より、葬式に出席したときのことの方をもっと覚えてます。それらのことを考えながら、また改めて、他の人は「人生ってなんだろう？」と考えているのだろうか？と、私は考えるのです。変な文章？です。笑。これは、私自身が、今向き合ってる心の課題ではなくて、この話を通して、ゴスペルを話そうとしているのです。

人は生かされている

「人は生かされてるんですよ。」と、時々聞きます。しかしその時、誰に生かされているのかというのは聞いたことがありません。創世記の2章7節に、

「…神である主は、土地のちりで人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。そこで、人は、生きたものとなった。」

人は、神に土地のちりで造られ、そして、神に、生かされているのです。

人も死ぬ

飼っていた犬や猫が死ぬように、祭りで買った金魚が死ぬように、あの夏の暑い日、歩道の上でひっくり返って死んでいる蝉のように、車のフロントガラスにぶつかって死んだ鳥のように…、なんとも意味不明な夏の田舎のアスファルトの上。よく気がつく。草むらからミミズが出てきて、熱いアスファルトの上を這っているのです。「暑いのに何してるん？」わからん。周りには何匹か干からびて死んでいる。生きているのは這い続けるのです。アスファルトの上にある小さなゴミや砂や泥が、からだ中にまみれて、のたうち回りながら進んでいるのです。想像できます？見たことがあるかもしれませんね。まもなくこのミミズも死ぬ。そして、人も死ぬ。

最後の切り札

人が死ぬというのは、人が、神の良い知らせ、神の約束である永遠の命の望みと真剣に向き合う最後の切り札。私はそう確信する。なぜならば、人が神を知って、神の恵みの約束である永遠の命をもらうまで、本当の意味で、人は死に直面することができないからです。「死んだら終わりですよ。全てが無になるんですよ。」は、悪魔の嘘です。それで手を打ってはいけません。今、まだ生きている時に、他の人の死を通して、悪魔の策略である死を打ち破ったイエスに、罪の赦しと永遠の命の約束を心にいただくのです。

生きている者

死の日は 生まれる日にまさり
悲しみは 笑いにまさる
祝宴の家に行くよりも 喪中の家に行く方が良い
そこには 全ての人の終わりがあり
生きている者が
それを心に留めるようになるからだ

一言も聞こえない 朝の満員電車で揺られて
また 今日が始まる
「人は、何のために生きているのか？」と
だれも問いかけはしない
希望の歌を歌いたいのに 絶望の歌が生まれる
塩気をなくした塩が 何の役にも立たず
外に捨てられて 踏みつけられているようだ

入学したら 卒業したら 就職したら
結婚したら 子どもができたなら 家を買ったら
映画を見たら ゴルフをやったら 旅行に出たら
浮気をしたら 離婚をしたら 自殺をしたら
満たされない心にかき立てられて
忘れた頃に出る虹を追いかける
探していたものはなかった そこには
何を探していたのかも わからない

神の助け

人が真の神を知るには、人間以上の力である神の助けが要ります。私は、長い間イエス・キリストにある永遠の命の希望を伝え、説明させてもらっていますが、神を知るために、神の助けが人に働き始める2つの条件があります。(条件と言うと、堅苦しくまた人間的？ またルールみたいで、私は、そういう状況や言葉は嫌いですが、ここではその言葉を使わせてくださいね。)

条件1

「聖書に記されている天と地のすべてのものの創り主なる神がおられるなら知りたいという願い。」進化論を信じているほとんどの日本人にとって、創造主というのは、おとぎ話に出てくる言葉で、人の思いの中に入らないのです。しかし、聖書の中には、人が創造主を知るのに助かると私が思うことがたくさん書かれています。

その一つ(ローマ人への手紙1・19～20)、

「神について知りうることは、彼らに明らかであるからです。それは神が明らかにされたのです。神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。」

簡単に言うと、創造主がおられることは、「辺りを見回したらわかる!!!」と言うのです。動物、植物、生物、何でも目に入るものを見たらわかるのです。道端の草一つ見ても、自分の手を見ても、存在するもの何を見ても、どれひとつ、勝手に、偶然に、ひとりでに、発生して、存在することはできない。存在している全てのものの創造の巧妙さ、知恵、知識、力などは、造り主に土地のちりから造られた人間には、到底想像すらつかない!! しかし、創造主なる神を知りたいと、心を開くなら、全てが、偉大な創造主の力で造られたことが人にわかると言うのです。

条件2

自分がまだ知らないその造り主なる神と呼ばれる方に対して、「自分が正直である」ということと、

また、「自分も自分に正直である」ということです。後半の部分ですが、自分も自分に正直であるということは、真の神を知りたいと願うまで本当にはできないことです。それはその人の心の中で、自分の全てを知っておられる神がいるかもしれない、また、人間以上の方がおられるかもしれないという思いがないからです。くどいようですが、真の神がおられるなら知りたいと願う時、人は自分にも正直にもなれるのです。不思議です。それは神がしてくださる神業です。真の神を知りたい時に、神の働きはすでに始まったのです。その心に起こることはすでに人間以上です。この二つが人の心にあるなら、人は聖書に書かれてある神を知ることができるのです。「探しなさい。そうすれば見つかります。」(マタイ7・7) イエスのことばです。

光に来る

「そんなことは、幼稚な考え、単純な考え、またナイーブな愚かな考えだよ。そんな心構えで、大変なこの世の中で生きることとはできない。甘すぎるよ!」と言われるかもしれませんが、そうではありません。この世がいくら邪悪になろうとも、いくら暗くなろうとも、創造主なる神、全治全能の神は、心から真の神を知りたいと願う人の心を、すべての暗闇の力、悪の力から守り、そして、その人が直接真の神を知るように導くのです。それは、神の人に対する恵みとあわれみです。

真っ暗な部屋でも電気をつければ明るくなるよ

うに、そのように暗闇は光に勝てないのです。悪魔は、神に勝てないのです! 人は、光であるイエスに来るべきです。イエスは、愛です。正義です。清く(聖く)、真実です。希望です。命です。永遠の命の希望です。人が神(真理)を知る時、神はその人を自由にし、聖書のゴスペルが本当だとわかるようにさせてくれます。そして、神の子どもとなり、ますます暗くなるこの世で、イエスが下さる平安と喜び、イエスが下さる生きる目的と役割の中で、イエスは、その人を立たせ、力強く進む者へと変え続けてくださるのです。

秋冬の旅もいくつかコンサートがあります。どうか聞きに来てください。絶対なくなることのない永遠の希望のメッセージです。すべての人が必要な永遠の命の希望です。私も、ますます暗くなるこの世にいます。しかし、光と一緒になら、いくらこの世が暗く、邪悪になろうとも、大丈夫です。人は闇から光に来るべきです。闇の中にいると、何も見えないのです。自分が闇の中にいることも気がつかないのです。私はこの45年くらい、光であるイエスについて人々に話したり歌ったりしました。それが神からの私の役割だからです。人は、生きていれば光に来ることができます。コンサートに来て何でも質問してください。イエスが下さる希望について、いくらでもお話ししましょう。お会いできるのを楽しみにしています。

Noboru Morishige

秋・冬のLIVE Information

11月6日(木)	桃山学院中学高校		
11月22日(土)	神戸煉瓦倉庫 K-wave	神戸ハーバーランド (JR 神戸駅より徒歩8分)	078-361-7717
12月6日(土) 7日(日)	新里チャペル	群馬県桐生市新里町新川 527-1	0277-47-6049 (八町)
12月10日(水) 午前10時	群馬キリスト集会	群馬県高崎市金古町 190-1	027-372-6961
12月14日(日) 午後1時	厚木キリスト教会	神奈川県厚木市妻田北 4-7-7	046-222-3379

ザ・デイ / 森繁 昇

〒744-0019 山口県下松市桜町2丁目17-24
FAX ▶ 0833-91-6492
E-mail ▶ thewindisblowing@hotmail.com
振替口座 ▶ 01330-4-93687 ザ・デイ

HP / thedaywill.com

Noboru Morishige
P.O.BOX 1666
KEAAU, HAWAII 96749 U.S.A
TEL ▶ 808-966-9252

